

令和4年度全国学力・学習状況調査 三郷市の調査結果分析と今後の方策例

主な成果（○）と課題（▲） 全国差：全国平均正答率との差

小 学 校 算 数

全体の結果（正答数分布グラフ等からの分析）

- 平均正答率は、65.0％である。
- 平均正答数は、10.5問/16問であり、全国を上回る。※全国10.1問/16問
- 市の平均正答率は、全国差+1.8％である。

学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式別結果

- 学習指導要領の領域「A数と計算」では、全国差+2.8％である。
- 評価の観点「思考・判断・表現」では、全国差+2.8％である。
- 問題形式「記述式」では、全国差+2.6％である。

問題別結果（正答率、無回答率からの分析）

- 2**－（1）「百分率で表された割合を分数で表すことができる」では、全国差+7.5％である。
- 1**－（4）「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる」では、全国差+5.1％である。
- 市の平均無回答率は1.1％であり、全国の平均無回答率3.5％を下回る。
- ▲**1**－（2）「二つの数の最小公倍数を求めることができる」では、全国差-1.3％である。
- ▲**4**－（3）「図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している」では、全国差-3.3％である。

今後の方策例（※**4**－（3）を例に）

「図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解しているかどうかをみる」

令和4年度 全国学力・学習状況調査報告書（国立教育政策研究所）より

図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について考察できるようにする

- 図形を構成する要素やそれらの関係に着目し、ひし形の作図の仕方について、筋道を立てて考えることができるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、本設問のように、ひし形の意味や性質を基に、コンピュータを用いてひし形を作図する活動が考えられる。その際、右のページの図のように、正方形とひし形の同じところや違うところを考える場合は、辺の長さや角の大きさに着目できるようにすることが大切である。

（右ページ）→

